

made by Japanese

上海レポート

# ちよつとちがうぜ 中国で農業

第56回 曲がり角にある中国花き産業

土下信人 (つちした・のぶひと)

1949年愛知県生まれ。95年、沖縄で(有)土下を設立。組織培養技術を活用した苗生産・販売を中心とした農業のコンサルタント業務を開始。上海で組織培養施設への指導を行ない、2003年同地で組織培養会社、上海百奥微繁植物有限公司を設立。HP「大きな国で」を開設。  
<http://blog.livedoor.jp/touxia/>

## 価格よりも品質を

中国における2008年の花き生産量の統計が例年より早く発表された。それを見ると2007年、2008年と100億本を維持したものの、2006年の106億本を越えることができない状態になっている。中国は生産される花のほとんどが国内で消費される花消費大国だ。生産量もこれまで右肩上がりが続いていた。なぜ、ここに来て停滞が起きているのだろうか？ 中国の花店で組織されている団体のリーダーにその原因を聞いてみた。

「最も大きな問題は輸送による痛みだ。輸送中に花がきちんと取り扱われていない。そうした流通上の問題があるために生産者も花の品質を問



8月26日は旧暦の七夕。中国では情人節(恋人の日)といわれ、恋人に贈り物を贈る習慣がある。この日は高額(2万円前後)の花束がたくさん売れる。

題にしなくなった。だが、消費者は価格よりも品質の良い花を欲しがっている。しかも、そうした要求は強くなってきている」

消費者ニーズが価格よりも品質に変わったという話に耳を疑ったが、7月末に昆明で開催された「全国花店交流会」に参加してみても「品質」が重視されていることがわかった。実演された花の使い方も新しいトレンドを取り入れたものになっていた。

## 新しい品種が欲しい

中国に進出しているオランダの種苗会社の人にも、中国の花産業について聞いてみた。

「中国で開発される花の新品種は以前から欲しいと思っていた。中国のとある生産会社と新品種に関する話を進めたが、種苗法を遵守する姿勢が見られず取引することはできなかった。いま付き合い始めている別の

生産会社は、種苗法を遵守するから新品種を生産させて欲しいと言ってきた。一緒に種苗法を守るということでも話が進んでいる。それを実現するために新品種市場では生産者と協力し、販売もコントロールしていくつもりだ」

このオランダの会社は、中国の花産業の現状にチャンスを感じている。

## バラ一本が1300円

花に求められる商品価値が変わってきたことは、雲南にあるバラ生産会社の事例からも感じる。この生産会社は以前から自分たちで育種を行なっていて、種苗登録もとっている。生産した花の中には「中国紅」と名づけられた赤いバラがあるが、このバラ是北京オリンピックの勝者に贈る花束に使われたことで一躍有名になった。今年2月13日のオークションでは、1本93元(1300円)で競り落とされた。オークション始まって以来の高値である。それ以降高値で取引が続いている。

中国人は、農業はあくまでビジネスだと考えている。規模拡大するスピードも速く、撤退するのも早い。いまは自分たちのオリジナルを持つことによってチャンスが生まれると感じ始めている。停滞こそチャンス